

水曜ぶらす

スマート シニア ⑦



ネットと高齢者

「売国奴……」「左翼……」九州に住む60歳代の男性は昨年春、自分のブログに攻撃的なコメントがたくさん書き込まれているのを見つけて驚いた。憲法や政治に関する持論を載せたことで、ブログが「炎上」しかかっていた。友人や家族が読む程度と考えていたが、予想外だった。ネットトラブルに詳しい福岡市の向原栄大朗弁護士(39)に相談。ブログを当面、閉鎖するよう助言され、それ以上の被害を防ぐことができた。ブログは匿名だったが、向原弁護士は「ちゃんねるなどに転載されると、実名が特定され、名指しで誹謗中傷さ

実社会と同じ注意を



「ネット上の被害は一気に拡散してしまうため、回復が困難。予防に努めるしかない」

インターネットや携帯電話の情報ネットワークは、この20年ほどで急速に普及した。いま30歳前後の人たちを筆頭に、子供の頃からネットに親しんだ世代は「デジタルネイティブ」と呼ばれ、日本の人口の約3割に達している。一方で、高齢者は最近ネッ

「新老人の会 九州支部のアイパッド勉強会で学ぶ高齢者たち。「日野原さんのメッセージが見たい」と始めた人もいる(福岡市博多区)」

トに接するようになった人が多い。福岡市などで高齢者向けのパソコンセミナーを開く工藤洋輔さん(39)は、こう注意を呼びかけるという。「ネットは無法地帯。誤解を招く可能性を常に考えた方がいい」「炎上」しがちなテーマは、やはり政治問題。とりわけ中国、韓国、北朝鮮との外交・領土問題は激論になる恐れがある。男女平等に関する話題も要注意。「高齢者は『男は仕事、女は家庭』と考える傾向が強いが、それを強調しすぎると男尊女卑とみなされ、批判にさらされます」。宗教について記載したことで、ネット上の友人らが遠ざかったケースもあるという。

九州・山口総合面

聖路加国際病院(東京)の理事長で満10歳の日野原重明さんは、実名の交流サイト「フェイスブック」で仲間を広げる活動をしている。2000年に「新老人の会」を設立し、

「次世代のモデルとなるようなシニアの生き方」を提唱してきた。ネットに強い会員たちが昨年、会の中に「スマートシニア・アソシエーション」を結成。フェイスブック上で日野原さんのメッセージを毎日掲載している。

代表の都倉亮さん(59)によると、スマートシニアは「賢く洗練され、IT(情報通信技術)に通じた高齢者」という意味だ。「現実の人間関係を土台に、つながりあうための手段として、ITを利用してほしい」。初心者向けに開いているフェイスブックの勉

強会で、知らない人とは「友達」にならないように助言するという。見知らぬ人が訪ねてきても家に入れないはず。ネットの世界も、実社会で気をつけることと同じです」

◇ 東京大学の木村忠正教授(情報ネットワーク論は、日本ではネットへの不信感が強いために、匿名・匿名でのブログやツイッターが好まれる。そのために、現実の世界とネットの世界とが乖離してしまいう傾向にある」と指摘する。

「現実の人間関係を基盤にして生きてきた高齢の人たちが、その経験を踏まえてITを活用した交流を広げることが、ネットをめぐる社会的な環境にもプラスの影響を与えていく可能性がある」(玉城夏子、村方和樹、おわり)